

法人お客さま向けの 再エネ・CO₂フリープラン を拡充します！



ずっと先まで、明るくしたい。

2021年11月17日

要 旨

1

- 当社は、2018年以降、法人お客さまの環境経営への取組支援として、自社再エネ電源を活用した「再エネECOプラン」をご提供してまいりました。
- 昨今、国の「2050年カーボンニュートラル宣言」等を背景に、「再エネ」に対するお客さまのニーズが急速に高まっています。
- また、国としても、お客さまの「再エネ」ニーズの高まりを受け、非化石価値取引市場を見直すなど、「再エネ」を取り巻く環境が大きく変化しています。
- このような大きな環境変化の中でも、当社はお客さまの「再エネ」に関する多様なニーズにお応えし続けるため、今回、再エネ・CO₂フリープランを拡充します。

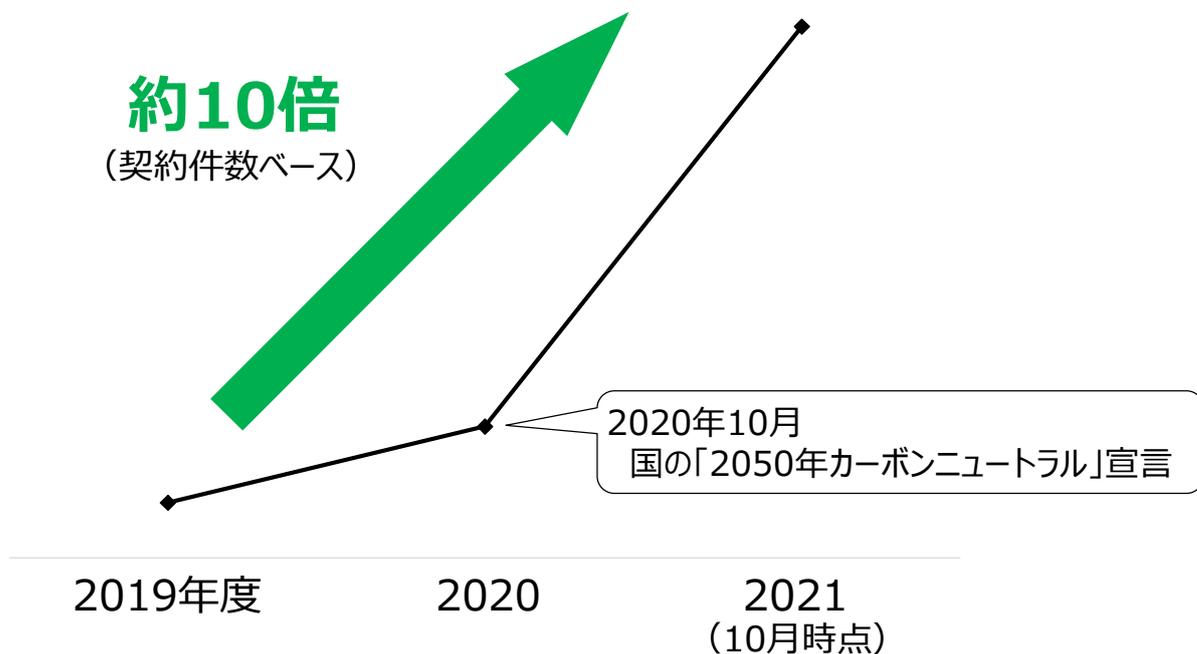
対 象	法人お客さま向け	ご家庭お客さま向け
名 称	再エネECOプラン	まるごと再エネプラン
創 設	2018年 9月	2021年3月
電 源	自社水力・地熱	自社水力・地熱
特 長	<ul style="list-style-type: none"> ・再エネ+CO₂フリー ・RE100対応 ・温対法対応 ・非FIT証書・再エネ指定あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・再エネ+CO₂フリー ・環境省のEV補助金に対応 ・非FIT証書・再エネ指定あり



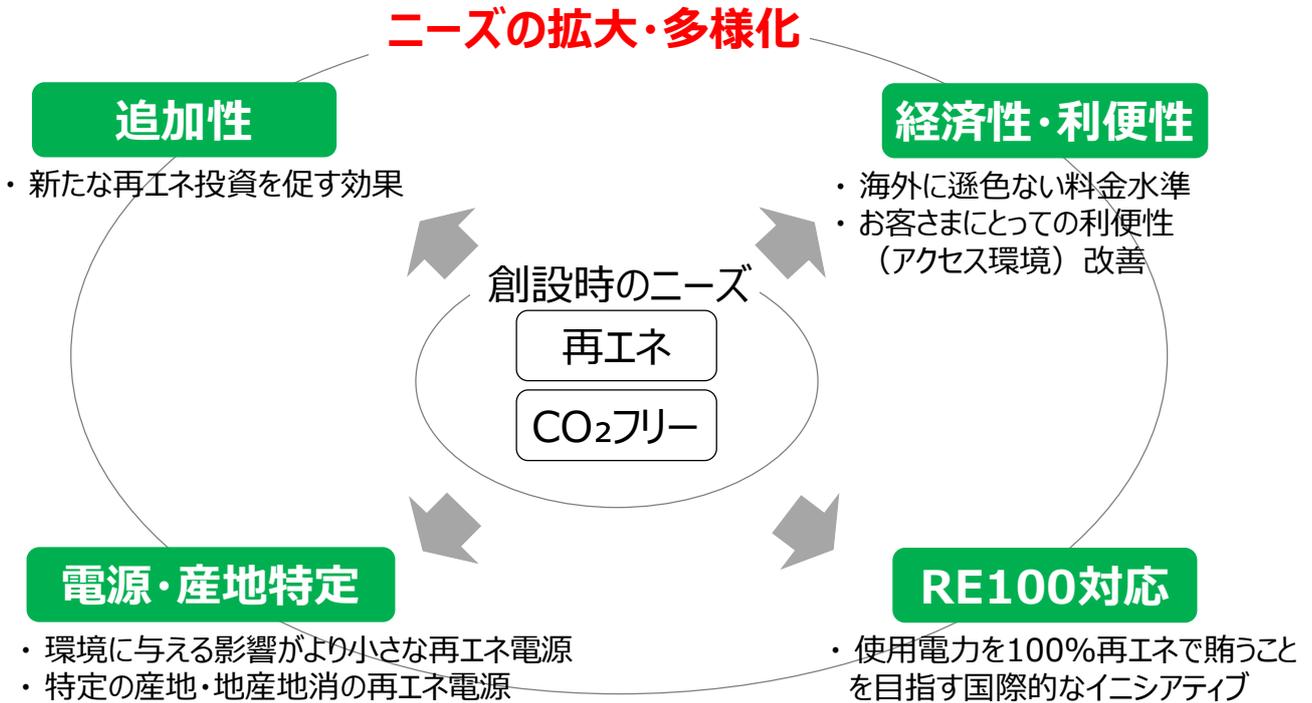
今回、再エネプランを拡充

プラン拡充の背景：お客さまの再エネニーズの高まり

○ 脱炭素化に向けた動きの加速に連動し、「再エネECOプラン」ご契約は急増しています。



○「再エネECOプラン」創設時は、「再エネ」「CO₂フリー」といったシンプルなニーズが主流でしたが、昨今はグローバルな観点も踏まえて、ニーズが多様化しています。



【空白】

○ お客さまご自身でも再エネ価値の取得が可能となる「再エネ価値取引市場」が開始します（2021年11月～）。

	非化石価値取引市場	高度化法義務達成市場 (2021年8月～)	再エネ価値取引市場 (2021年11月～)
目的	高度化法達成 非化石電源の投資拡大	高度化法達成 非化石電源の投資拡大	需要家の再エネ価値 調達環境の整備
対象証書	非FIT証書 FIT証書	非FIT証書	FIT証書
売り手	非FIT：発電事業者 FIT：国	発電事業者	国
買い手	小売電気事業者	小売電気事業者	小売電気事業者、 需要家、仲介事業者
最低価格	非FIT：なし FIT：1.3円/kWh	0.6円/kWh	0.3円/kWh
証書収入の 使途	非FIT：非化石電源の維持・ 拡大 FIT：再エネ賦課金の低減	非化石電源の維持・拡大	再エネ賦課金の低減

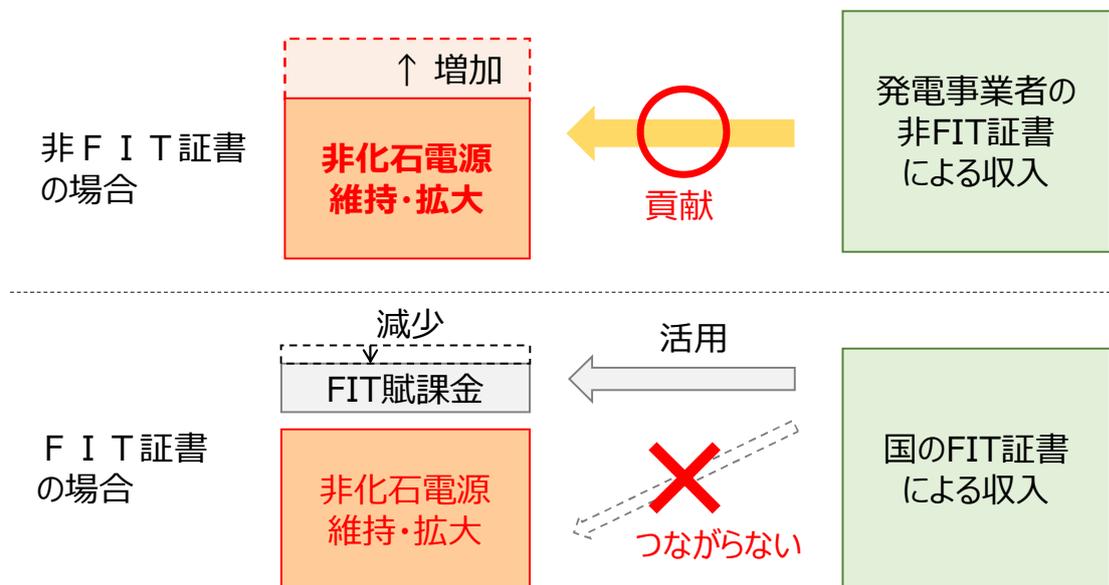
(補足) 非FIT・FIT非化石証書の収入の使途の違いについて

○ 「非FIT証書」の収入は、その使途が「非化石電源のkW・kWhの維持・拡大」に限定されています。

⇒ お客さまは、非FIT証書を活用した再エネプランをご契約いただくことを通して、「非化石電源の維持・拡大」に貢献いただくことが可能です。

○ 「FIT証書」の収入は、「FITの再エネ賦課金の低減」に活用されます。

⇒ 新たな再エネ投資にはつながりません。



○ お客様のニーズの多様化や、再エネプランを取り巻く環境変化に対応し、今回、以下のとおり再エネ・CO₂フリープランを拡充します。

**再エネECO
極(きわみ)**

(現在の再エネECOプランをリニューアル)

- ・再エネ電気(水力・地熱等)とその再エネ価値をご提供するだけでなく、電源種特定など、更なる価値をご提供
- ・再エネ電源の維持・拡大に貢献

[非FIT証書の活用]

**再エネECO
プラス**

- ・現在お使いの電気に、再エネ価値を付加してご提供
- ・再エネプランの導入をより身近に

[FIT証書の活用]

CO₂削減プラン

- ・現在お使いの電気に、CO₂フリー価値を付加してご提供
- ・CO₂排出量ゼロの価値に特化

[非FIT証書の活用]

(注) 各プランの料金は、お客様と協議の上、現在、ご契約の電気料金に環境価値分を加算したものといたします。

プランご紹介①「再エネECO極(きわみ)」

※現在の「再エネECOプラン」をリニューアル

ポイント

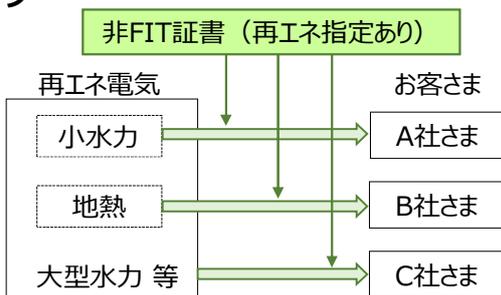
「当社の水力・地熱等の非FIT再エネ電気」+「非FIT非化石証書(再エネ指定あり)」
 → **純粋な「再エネ」電気**をご提供 ※提供可能量には限りがあります。
 再エネ電気は、当社の強みである地熱に限定する等、ニーズに応じて**電源種を特定可能**

非FIT証書トラッキング実証※1への参加やJQA(日本品質保証機構)による技術支援※2
 → **RE100への対応を支援**

※1 環境価値の由来となった発電所情報等を国が非化石証書に付与する制度
 ※2 運用ルールの策定にあたって、「RE100」の推奨事項である「第三者機関による検証」を参照し、同機関から技術的な支援を受けております。

本プランを通じた非FIT非化石証書の収入は、再エネ電源の維持・拡大に活用
 → **お客様が社会全体の再エネ電源の維持・拡大に貢献可能**

イメージ



※ 産地特定・地産地消のご希望については、個別に協議させていただきます。

おすすめのお客さま

- 「地熱発電の電気を使用中」のように、特色ある再エネPRを行うことに興味をお持ちのお客さま
- 社会全体の再エネ電源の維持・拡大に向けた取組みに興味をお持ちのお客さま
- RE100加盟中または加盟予定のお客さま
- 温対法への対応として、CO₂排出量の低減をご検討中のお客さま



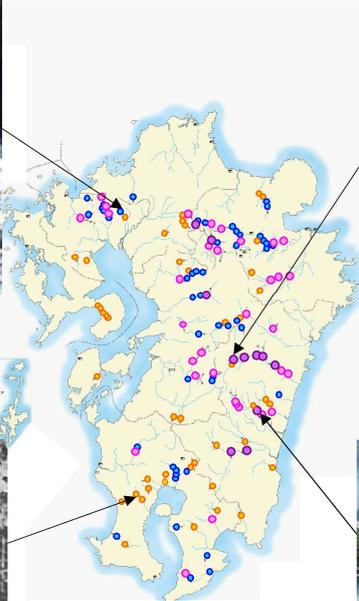
広滝第一発電所 2,150kW

○土木学会 近代土木遺産



こやまだ
小山田発電所 240kW

○九州に現存する最古の発電所



規模	地点数	出力
3万kW以上	11	77万kW
5千kW以上 3万kW未満	35	39万kW
1千kW以上 5千kW未満	46	11万kW
1千kW未満	43	1万kW
計	135	128万kW



上椎葉発電所 93,200kW

○日本で最初に建設された
大型アーチ式ダム
○ダム湖百選に選出



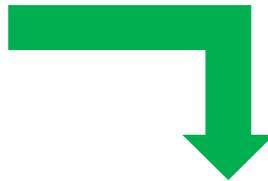
一ツ瀬発電所 180,000kW

○九州最大のアーチ式ダム(高さ130m)

< 塚原発電所リニューアル工事の様子 >



出力「+4,000kW」増加
(63,050kW→67,050kW)



高さ:約12m、直径:約8m
の水車発電機を設置

滝上発電所 27,500 kW



○大分県・九重連山の北側に位置

八丁原発電所 55,000 kW × 2
八丁原バイナリー 2,000 kW



○阿蘇くじゅう国立公園特別地域に立地
○日本最大規模の地熱発電所

山川発電所 30,000 kW



○鹿児島県・薩摩半島の南東端に位置

大霧発電所 30,000 kW



○鹿児島県・霧島連山の西部に位置



大岳発電所

計	6カ所	21万kW
---	-----	-------

＜ 新規開発地点の地熱資源調査の様子 ＞

地下資源(蒸気等)を確認するための掘削



蒸気等の能力を確認する噴出試験



ポイント

- 🍃 「現在お使いの電気（再エネ・火力等が混在）」 + 「FIT非化石証書」※1

➡️ 「**実質再エネ**」電気※2をご提供

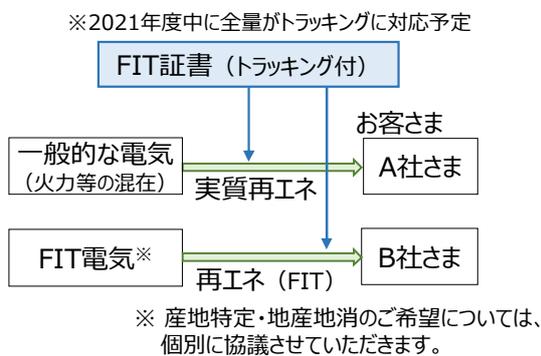
※1 当社の非化石証書保有状況に応じて、非FIT非化石証書（再エネ指定あり）を活用する場合があります。
 ※2 FIT電気との組み合わせで「再エネ（FIT）」電気をご希望の場合は、別途協議となります。
- 🍃 当社がFIT証書を取得し、現在お使いの電気に合わせて再エネ価値をご提供

➡️ **お客さままでのお手続きの負担を解消**

※ 再エネ価値取引市場（2021年11月開設）では、お客さまが自らFIT証書を直接調達することも可能。
 ただし、お客さま自身でCO₂排出量低減に必要な証書量の管理や入会金・年会費等が必要。
- 🍃 FIT証書トラッキング実証（2021年度中に全量トラッキングが開始予定）

➡️ **RE100にも対応可能**

イメージ



おすすめのお客さま

- 再エネ価値取引市場からのFIT証書の調達に興味をお持ちで、証書取得手続き等にご懸念をお持ちのお客さま
- 環境経営の取組みの皮切りとして、再エネプランの導入をご検討中のお客さま
- RE100加盟中または加盟予定のお客さま
- 温対法への対応として、CO₂排出量の低減をご検討中のお客さま

再エネプランの特長比較

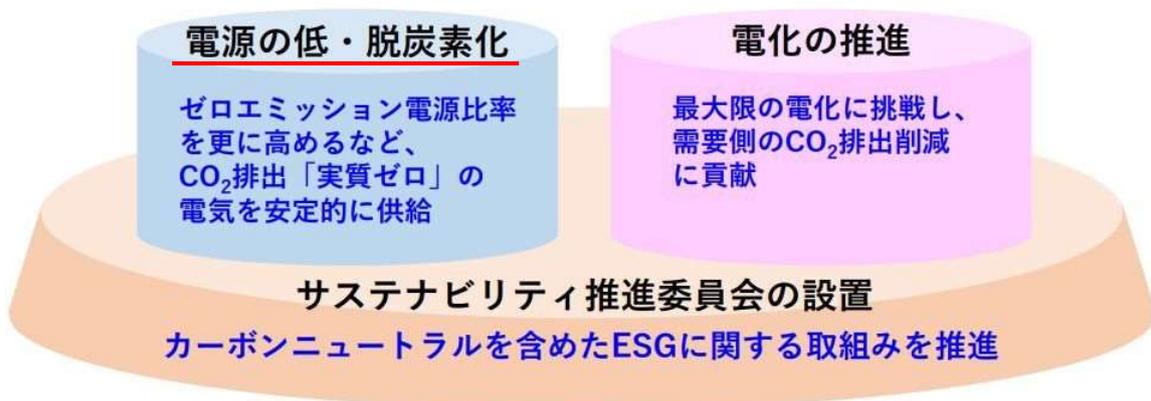
名称	再エネECO 極（きわみ）	再エネECO プラス
非化石電源 維持・拡大	★	—
電源特定	★	—
再エネ	★★	★ 〔「実質再エネ」 または 「再エネ（FIT）」〕
CO ₂ フリー	★★	★ 〔「実質CO ₂ フリー」 または 「CO ₂ フリー（FIT）」〕
RE100	★	★

<p>ポイント</p> <p>🌿 「現在お使いの電気(再エネ・火力等が混在)」 + 「非FIT非化石証書(再エネ指定なし)」 → 実質「CO₂フリー」電気をご提供</p>	
<p>イメージ</p>	<p>おすすめのお客さま</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 温対法への対応として、CO₂排出量の低減をご検討中のお客さま ○ 事業活動における環境対策として、特に「CO₂削減」の取組みに興味をお持ちのお客さま

(参考3) 当社のカーボンニュートラルに向けた取組み

- 九電グループは、地球温暖化への対応を企業成長のチャンスと捉え、**低・脱炭素のトップランナー**として、九州から日本の脱炭素をリードする**企業グループ**を目指します。
- エネルギー需給両面の取組みとして2つの柱を設定し、**「電源の低・脱炭素化」と「電化の推進」**に挑戦し続けます。
- 社長を委員長とする**「サステナビリティ推進委員会」**を設置し、カーボンニュートラルを含めたESGに関する取組みを推進します。

2050年カーボンニュートラルの実現に挑戦



※「九電グループカーボンニュートラルビジョン2050」(4/28発表)より一部抜粋



ずっと先まで、明るくしたい。